




平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 北九州市 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	松ヶ江北小学校 第5学年 1クラス 15名 全校児童 67名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ パラリンピックや障害者スポーツを調べたり、体験したりする活動を通して、パラスポーツの楽しさを実感するとともに障害をもった方たちと共生する社会について考える。 ○ 車椅子バスケットボールやゴールボールの選手の方の話を聞いたり、競技用車椅子の使用体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	○ パラリンピックや車椅子バスケットボールについて調べる。 ○ 車椅子バスケットボール小学生大会に向け、練習をするために大切なことを障害者スポーツセンターの方に聞いたり、教えてもらったりする。(週1回の練習に継続して取り組む) 6月～11月  ○ 車椅子バスケットボールの競技者から話を聞き、車椅子バスケットボールを覚えてもらう。(福澤 翔選手との交流活動)  

大事なことは、相手への思いやりとコミュニケーション

大事なことは、相手の名前を呼ぶこと

- カナダチームの選手と交流する。(一緒にプレー、質問等)



- 車椅子バスケットボール小学生大会に出場し、試合を経験したり、福澤選手やカナダチームを応援したりする。



- 応援した選手との交流活動を通して、自分の体験と比べながら人間の強さ・生きがい・仲間・豊かな生活等について考える。
- 学習したことを振り返り、友達と意見交流する中で、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
- 学習したことをまとめ意見交流会をする。



やさしさ

助け合い

根気

本気

仲間

協力

感謝

思いやり



- その他のパラスポーツについて調べたり、体験したりする。ゴールボールの競技者(パラリンピアン:小宮正江選手)から話を聞き、ゴールボールの体験を行うなど講話や体験を通して、人間の強さ・生きがい・仲間・豊かな生活等について考える。



【障害者スポーツセンターでの障害者スポーツ体験】



- 2020年東京オリンピックパラリンピックに向けできることを考える。

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間「パラスポーツdeバリアフリー～I'm possible～」として5年生が取り組んだことで、探究的な学習活動を行うことができた。 ○ 事業を活用し、パラリンピアン（金・銀メダリスト）の方との交流活動やパラスポーツ体験を位置付けたことで、子どもは自分の課題として追求意欲をもち続け、より深い学びとなった。 ○ 障害者スポーツセンター（アレアス）に相談しながら、交流できる方を紹介していただいたり、パラスポーツを体験させていただいたりできた。また、「車椅子バスケットボール小学生大会」に出場させていただいたことで、長期的（6月～11月）に競技用車椅子を借りることができ、週1回の指導を継続的に行っていただいたことで、技術面・心情面共に向上することができた。 ○ 車椅子バスケットボールの選手やゴールボールのパラリンピアンのお話を聞いたり、一緒に体験活動をしたりしたことで、選手のすごさを実感すると共に選手の生き方や考え方にふれることができた。また、一連の学習活動をパラスポーツ新聞にまとめ、発信することで障害のある方と共生する社会について考えることができた。 ○ 福澤選手やカナダチームの選手、パラリンピアンである小宮選手など本物との出会いは、子どもに大きな感動を与え、自分たちの生き方や生活を見つめ直すよい機会となった。 ○ 「障害者スポーツ」を学習材にしたことで、障害のある方へ偏見をもたず、理解が深まり、「すごい」という肯定的な見方や考え方が自然とできるようになり、共生を感じ取った。 <p>【学習後の子どもの振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 私が、パラスポーツを通して学んだことは誰でもできて誰でも楽しめることです。一番心に残ったことは車椅子バスケットボール小学生大会の決勝戦です。決勝戦に行くまでに6ヶ月間、福澤選手や田中先生（アレアス指導員）にたくさん教えていただきました。プレーの技はもちろん、それ以上に「友達と声を掛け合うこと」や「チームワーク」の大切さをいつも教えてもらいました。そして、試合を通して「チームワーク」の大切さを本当に感じることができました。試合前に円陣を組んだ時、みんなの心が一つにつながりました。この学習で学んだ「チームワーク」をこれからも大切に、クラスの仲間との絆をもっともっと深めたいです。そして、仲間や出会った人に感謝しながら生活したいです。 ○ ゴールボールの小宮選手と交流をしました。小宮選手は目が不自由でもそれを個性としてゴールボールをやっているのでも「すごい」と思いました。小宮選手は、耳で色々なことを感じ、誰よりも練習して上手く、強くなったそうです。そして、キャプテンとしてパラリンピックに出場し、金メダルや銀メダルをとりました。本当にすごいです。また、目が不自由でも心の目で見ていることがあることもわかりました。誰でも努力すればほとんどのことができると思ったので、ぼくもあきらめずに頑張ろうと思います。 ○ お話を聞いた後、小宮選手と一緒にゴールボールを体験しました。アイマスクをして真っ暗で何も見えない中で、鈴の音をたよりにプレーするのはとても難しかったです。やっぱり小宮選手はすごいです。同じパラスポーツの車椅子バスケットボールとは全く違いました。ボールを投げる時も守るときも難しかったです。普通に見えたらわかるけど、見えないとこんなにづらいことがわかりました。小宮選手に「ゴールボールは、コミュニケーションと相手を思いやる気持ちが大切」と、教えてもらいました。これは、車椅子バスケットボールと同じです。どんなスポーツでも協力やコミュニケーションが大切だと改めて感じました。これからもみんなと協力していきます。福澤選手や田中さん、カナダ選手の皆さんと同じように小宮選手と出会えたことに感謝します。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラリンピアンとの交流における講師謝礼金 ○ 交流活動に併せたゴールボールの購入 ○ 障害者スポーツセンター（アレアス）との連携 ○ アレアスを活用した校外学習（障害者スポーツ体験）
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者が参観したり、体験したりできるようにしたい。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムとして位置付け、継続して行うため、来年度も実践予定である。

